

果樹の主要な病虫害発生状況（4月中下旬）

令和7年5月1日
福島県病虫害防除所

各種病害の胞子の飛散が続いています。今後の気象情報に留意し、各樹種の生育に合わせて防除を徹底しましょう。また、カイガラムシの発生予測に基づく防除を徹底しましょう。

【モモ】

1 モモせん孔細菌病

4月下旬の巡回調査（県北地方、品種「あかつき」）において、春型枝病斑の発生は確認されませんでした。参考調査ほ場の「ゆうぞら」や他地域のほ場では発生が確認されています。

春型枝病斑は見つけしだい、せん除し、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう（令和7年4月30日付け病虫害防除情報「モモせん孔細菌病」参照）。

2 カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシの防除適期が平年より早まる予測です（表1）。本種は、ふ化定着初期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除を徹底しましょう。なお、農業総合センター内のウメにおける歩行幼虫のトラップ調査の結果、4月30日現在で歩行幼虫は確認されておりません。また、ナシマルカイガラムシの寄生状況にも注意しましょう（令和7年4月30日付け「モモのカイガラムシ類の防除対策」参照）。

表1 ウメシロカイガラムシの第1世代幼虫発生盛期予測日(4/30現在)

	梁川	郡山	会津若松
本年予測	5月8日	5月11日	5月13日
平年	5月22日	5月24日	5月24日
平年差	-14	-13	-11

※本年予測日は平年より2℃高く推移した場合。起算日:1月1日(演算方法は平均法)□

【リンゴ】

1 リンゴ褐斑病

果樹研究所における子のう胞子トラップ調査の結果、4月23日に初飛散が確認され、24日には飛散量が多く確認されました（4月24日現在）。リンゴ褐斑病は開花期にも感染リスクがあることが確認されていますが、本年の開花日が4月20日（果樹研究所）であり、本年も感染リスクがあったと考えられます（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/680220.pdf>）

本病は、初発が早いと多発する傾向にありますので、一次感染期からの防除の徹底が重要となります。例年発生がみられるほ場では、落花直後・落花2週間後にデランフロアブル 1,000倍、落花30日後にアントラコール顆粒水和剤 500倍を散布し初期の感染を抑えましょう。

2 リンゴ黒星病

会津研究所における子のう胞子トラップ調査の結果、4月20日および4月23日の降雨により、4月21日から24日にかけてまとまった飛散が確認されました（4月24日現在）。

会津地域研究所において、2022年～2024年に子のう胞子の飛散消長を調査した結果、展葉期から落花20日後頃まで飛散があり、当該時期が重要防除時期であることが確認されています。

（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/680221.pdf>）

今後の降雨でも子のう胞子の飛散が続き、感染リスクが続くことが予想されますので、落花直後の防除は、前回の散布から間隔を空けないよう注意し、効果の高いDMI剤（県病虫害防除指針参照）を十分量散布して被害防止に努めましょう。

表1 リンゴ黒星病子のう胞子飛散状況
(会津地域研究所、4/24 現在)

	胞子捕捉数	降水量（アメダス若松）	備考
4/11	—	0.0	
4/12	—	0.0	
4/13	—	1.0	花蕾露出期
4/14	22	6.5	
4/15	8	7.0	
4/16	14	8.0	
4/17	—	0.0	
4/18	—	0.0	
4/19	—	0.5	
4/20	—	4.5	
4/21	35	0.0	
4/22	—	0.0	花蕾着色期
4/23	25	3.5	
4/24	43	0.0	

表2 ナシ黒星病子のう胞子飛散状況
(果樹研究所、4/24 現在)

	胞子捕捉数	降水量	備考
4/11	27	0.0	
4/12		0.0	
4/13		1.0	
4/14	49	20.5	豊水開花
4/15	2160	3.5	
4/16	497	5.5	
4/17	917	0.0	幸水開花
4/18		0.0	豊水満開
4/19		0.0	
4/20		1.5	幸水満開
4/21	81	0.0	
4/22		0.0	
4/23	213	1.5	
4/24	9480	確認中	

【ナシ】

1 ナシ黒星病

4月中旬の芽基部病斑の発生ほ場割合は、県北・県中・県南で平年並、浜通りでやや高い状況でした（図2）。特に、いわきでの発生ほ場割合が高かったため、注意が必要です。

りん片が付着したままの花そうは芽基部病斑の可能性が高いので、見つけしだい除去し、適切に処分しましょう。また、降雨の度に子のう胞子の飛散が確認され、4月24日には、前日の降雨により最大の飛散数となりました（果樹研究所、表2）。今後の降雨でも子のう胞子の飛散が続き、**感染リスクが続くことが予想されますので**、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、散布間隔があきすぎないように注意しましょう。

なお、本病の潜伏期間は、最短で2週間とされています。胞子飛散が続いた4月14～17日に感染した場合、**5月上旬頃に葉や果実で発病がみられる可能性があります**ので、ほ場内での発生状況に注意しましょう。

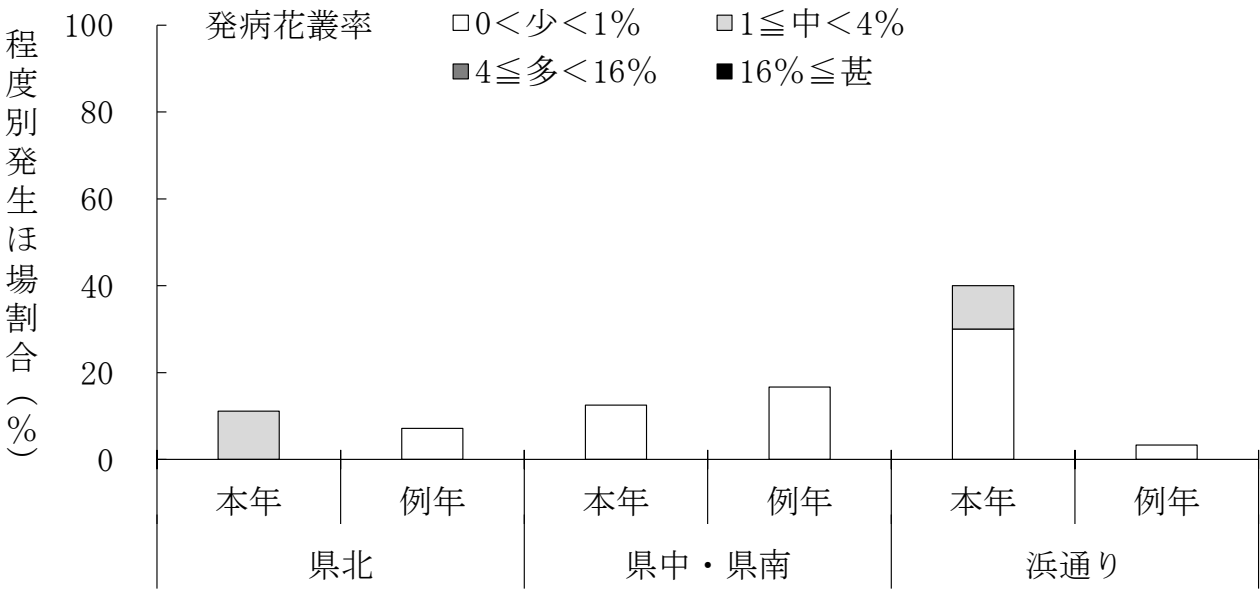


図2 ナシ黒星病（花そう基部病斑）の発生状況（令和6年4月）